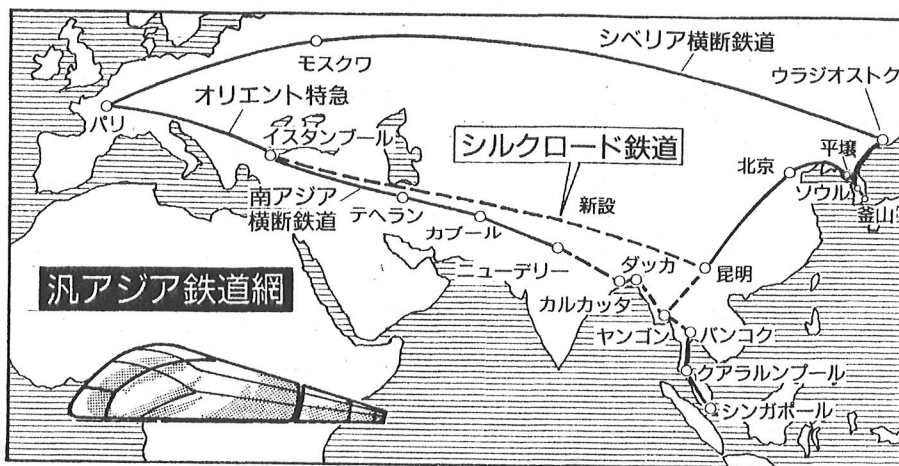


ソウル発 列車で世界旅行しよう



汎アジア鉄道に合意

南北韓と日本結ぶ計画も

ASEM

金泳三大統領は、アジア欧州首脳会議（ASEM）で、韓国、北朝鮮、中国、インドシナ半島、シンガポールなどを結ぶ「汎アジア横断鉄道」を建設することを関係国と合意した。「ソウル発アジア欧州鉄道の旅」へと、夢をくむ計画が進められる。

マレーシアが作成した汎アジア横断鉄道の具体案は、シベリア横断鉄道など既存の鉄道と連結して、アジアと欧州をつなぐ鉄道網だ。シンガポールを出発し、クアラランブール（マレーシア）、バンコク（タイ）、ヤンゴン（ミャンマー）を経て、中国の昆明、北京、丹東から平壤に向かい、韓国のソウル、釜山に到着する。このルートの内、新設区間はバンコクー昆明間で、ほかは既存の鉄道を利用する。

ASEMはまた、昆明からイスタンブール（トルコ）までを結ぶ、「シルクロード鉄道」と、ヤンゴンからインドのカルカッタ、ニューデリーを経て、テヘラン（イラン）、イスタンブールを結ぶ「南アジア横断鉄道」を建設することも検討することにした。

この汎アジア鉄道網建設には、北朝鮮との連結がネックになるが、建設交通部は北朝鮮に対し、連結事業

を協同推進することを提起する方針である。中国の李鵬首相が北朝鮮の説得に乗り出すも、南北連結の可能性が期待される。韓国は南北鉄道連結計画は八十年代初めから提起し、基本調査を行い、復旧作業を推進してきた。現在、汶山（京畿道）が終点になっている京義線は、汶山ー長湍（北朝鮮）間十二キロを復旧するために三百十一億を投入し、八五年に調査設計を終え、八六年十月から翌年七月まで臨津江の橋梁補修工事を行った。また、九二年には用地買収に着手し、九四年には環境処と環境影響調査も実施した。

建設交通部はこれを基に、二十九月で南北を結ぶ京義鉄道の復旧計画を作成している。

一方、新離里（京畿道）が終点になっている京元線の復旧計画も進行し、新離里から非武装地帯まで用地買収を今年中に完了する予定だ。また、金剛山線は九一年に鉄原（江原道）ー金谷間二四・五キロの測量を終え、来年から設計に入る。建設交通部の関係者は「汎アジア横断鉄道計画は昨年十月、国連アジア太平洋経済社会委員会と北朝鮮の肯定的な反応を得ている。しかし、ロシアは広軌鉄道で、東南アジアは狭軌鉄道であるなどの問題もあるから、具体的な協議が必要だ」と語った。

また、日本と海底トンネルで連結する計画も水面下で進んでいる。日本では八十年代から、学者や業界が「日韓トンネル研究会」を結成するなど意欲的だ。一方、韓国も九二年に建設技術専門家を中心に「韓日トンネル研究会」（会長・成百詮韓国海外技術公社社長）を結成し、日本と協同で調査をしてきた。

韓国双方が検討しているルートは、▽釜山ー対馬ー宮崎ー唐津ー巨済島ー対馬ー宮崎ー唐津などである。